



こくまろがらす？

コクマルガラス *Corvus dauuricus* は、主に旅鳥として本州から九州で越冬する冬鳥です(北海道・沖縄でも記録はあります)。香川県では不定期に渡来する冬鳥で、ミヤマガラス *C. frugilegus* の群に10羽以下が混じっていることが多いようです。香川県では1993年に刊行された文献(※1)が初出のようで、1993年1月に撮影された写真も公表されており(※2)、観音寺市の三豊干拓地での記録が多いようです。ただしミヤマガラスは、中西讃の水の無いため池や休耕田にも多数渡来することから、もしこの群に遭遇したら、コクマルガラスを探してみるべきでしょう。今年1月12日にも、丸亀市田村池でも成鳥(淡色型)が1羽、幼鳥(暗色型)が4羽観察されました。



▲コクマルガラス(淡色型) Photo©坂田和男 2013.1.12

淡色型と暗色型

本種はカラス類にしては小型で、ミヤマガラスの群内でも目立ちます。また淡色型と暗色型があり、淡色型では後頸から下腹部が白色であり、暗色型ではこの白色部が灰黒色です。これらの型について、暗色型の黒色部分に光沢が無いものを中間型として、暗色型・淡色型＝成鳥、中間型＝幼鳥または第1回冬羽とする図鑑(※3)と、単に淡色型＝成鳥、暗色型(中間型含む)＝幼鳥とする図鑑(※4)があります。

残念ながら香川県でそれほど暗色型をたくさん見る機会がないため、私はそもそも暗色型と中間型を区別できるのかもよくわかりません。ただ少なくとも、淡色型であれば成鳥というのは間違いありません。運良く遭遇すれば、こうした点にも注意してみてください。

- 1 香川県, 1993. 香川県のとりとけもの 平成5年3月
- 2 豊嶋, 1995. 「コクマルガラス 白色型 '93.1 香川県観音寺市柞田町(豊嶋)」の写真, 四国の野鳥, 高知新聞社
- 3 叶内・安部ほか, 2011. 山溪ハンディ図鑑7 日本の野鳥 増補改訂新版, 山と溪谷社
- 4 五百沢ほか, 2004. 日本の野鳥 550 山野の鳥 増補改訂版, 文一総合出版